

# B O O K



## 『正常画像と比べてわかる 病理アトラス 第3版 マクロとミクロの対応で捉える病態』

編集

下 正宗(東葛病院 臨床検査科科长)

長嶋洋治(東京女子医科大学 病理診断科 教授)

本書は、教科書が売れない時代ましてや病理学という基礎医学の本は大苦戦しているなか、第3版が出版されるという快挙を成し遂げた。

それもそのはず、病変を示す前に必ず正常画像が示されているため、初学者は組織学の本を引っ張り出して見比べるという手間が不要なのである。図には病変の部位が線や矢印で示されているのもわかりやすさに貢献している。さらに全編が写真やイラストに溢れ、文章は短いという読みやすさもある。写真はHE標本と特殊染色/免疫染色標本とがセットで左右に並んだり、弱拡大のどこを強拡大にしたかを図示したりと、きめ細かい配慮がなされている。

下(しも)正宗先生とは、私がまだ外科病理医として活発に活動していたころからのご縁である。下先生は東葛病院などを率いる法人の理事長にして、病理医としていまも精力的に診断に携わられている。先生は、日本病理学会の評議員、専門医、病理指導医であるとともに、日本では希な日本臨床検査医学会認定の臨床検査専門医でもある。ここまででも大先輩として凄いのに驚きなのは、私が現在の専門としている医学教育学の分野で、なんと「医学教育専門家」の資格もお持ちなのである。この資格は、ワークショップに参加したり、教育実績を膨大なレポートにまとめたり、医学教育学界の第一人者達から口頭試問を受けたりと、私のように専任で医学教育に従事している者でも合格することが非常に困難な専門資格である。本書は、下先生の教育に対する熱いパッションが、良書を世に出すという形になって上梓されたことが良く分かる。

長嶋洋治先生とのご厚誼も長い。何しろ長嶋先生は、横浜市立大学に在籍していた若いころから次代の病理学界をリードする逸材として誉れが高かった。中でも泌尿器腫瘍病理学にかけては本邦のトップランナーである。教授である現在でも、毎朝6時頃から猛烈に働き、学生や研修医がローテーションしてくると、時間を忘れて熱血指導を惜しまない。そのパッションに惹かれ、病理診断学に進む若者が彼の門を叩いている。

お二人のパッションが生んだ良書は、学生の心を掴むに違いない。

あー、惜しむらくは、どうしてA4判にしなかったのか?! もっと大きな図が見たかった! とはいえ、本書のA5判は手軽さでは一番であるため、悩ましいところである。

昭和大学医学部医学教育学講座 教授

泉 美貴

発行：株式会社羊土社 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-5-1 オーク神田小川町ビル  
定価：本体 5,000 円+税